



第40回九十九祭(大学祭)の様子。

## 医療技術学部 臨床検査学科の新設について

[設置認可申請中] 予定であり、変更となる場合があります。



北海道医療大学 副学長 黒澤 隆夫

北海道医療大学は薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部を順次設置し、5学部8学科による多様な領域の医療人養成を行う医療系総合大学として発展を続けてまいりました。その間、学部横断的な教育・研究を担う数多くの研究センターや多様な学習と実践の場として、心理臨床・発達支援センター、認定看護師研修センター、薬剤師支援センター、地域包括ケアセンター等を設置し、医療にかかわる優れた人材の育成を行ってきました。このように本学の建学44年の歴史は、社会のニーズに沿った医療人としての人材育成に取り組んできたものであり、「新医療人育成の北の拠点」として北海道に限らず日本全国、世界各国へ向けて人間力と臨床力に秀でた人材を送り続け、医療系総合大学として揺るぎない地位を占めております。

このたび、第6番目の新たな学部として「医療技術学部 臨床検査学科」の2019年4月開設をめざし、2018年3月に設置認可申請を行いました。新学部は札幌あいの里キャンパスに設置予定で、すでに一部の専任予定教員が就任し、次年度からの新入生受け入れ準備を行っているところであります。

最近の臨床現場においては、急速な医療技術の進展はもとより高度に専門性が高まり、看護や理学・作業療法などの医療系技術職の養成では、大学の4年制課程による教育が中心となりつつあります。臨床検査技師は、医療現場において、検査試料を通じて得られた生理検査、病理検査結果を正しく意味のあるデータとして提供するばかりなく、超音波診断や心電

図測定などの生体検査にも携わり、診断・治療のベースとなるデータを提供し、重要な専門医療職を担っております。このように、医療系技術職の中でも高い専門性が要求される臨床検査技師の養成に関して、道内では、4年制の教育課程は北海道大学のみであり、専門学校が主としてその養成を担ってきました。今後の臨床検査技師教育では、世界標準を意識した精密・正確で、高度な臨床検査技術を修得するための4年制養成教育が主流となるものと考えられます。

さて、医療系総合大学として、医療人の養成と教育研究の質の向上をめざす本学の目的養成分野は薬学、歯学、保健衛生学関係となりますが、2014年から、保健衛生学関係が看護学関係、リハビリテーション関係及び臨床検査学・栄養学等の3分野へと分割されました。このため、新学部は、既存の看護福祉学部、リハビリテーション学部とは異なる保健衛生学関係分野となり、新設として設置認可申請をする必要がありました。開設が認められれば、ほぼすべての医療技術職(保健衛生関係の3分野のいずれかに分類される学位を持つ課程)の養成へと拡充することも容易になります。

新学部の開設による高度な技術と知識を有する臨床検査技師の育成は、医療のベースとなる科学的根拠に基づいた診察・治療に加えて、広く健康の維持や疾病の予防にも関与し役立つものと確信しており、医療系総合大学として、本学が更なる飛躍を遂げる新しい礎になるものと期待しております。今後とも皆様の温かい支援をお願い申し上げます。

## CONTENTS

医療技術学部	1
臨床検査学科の新設について	
教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介	2
2018年度入試結果報告	3
心理科学部の関口真助教が 学会賞を受賞	
言語聴覚療法学科の高倉祐樹助教が メディカルスタッフ最優秀賞を受賞	
国家試験結果報告	4
国際交流	
就職状況結果報告	5
薬学生セミナー 「学内就職相談会」を開催	
あのとき、これから。医療大。	6
2019年4月、札幌あいの里キャンパスに 医療技術学部臨床検査学科を新設します。	7
私の学生時代	8
OG訪問[歯学科]	9
学校法人東日本学園	10
○2017年度決算 ○2018年度予算	
新入生アンケート結果報告	12
EDITOR'S NOTE	



# 教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

## 新規選出教員役職者

総合図書館長	千葉 逸朗
健康科学研究所長	太田 亨

薬学部	薬学部学生部副部長	鈴木 一郎
	薬学部学生部副部長	平野 剛
心理学部	心理学部教務部長	野田 昌道
	心理学部教務部副部長	太田 亨

## 新規特任教員

薬学部	教授	和田 啓爾
歯学部	教授	中澤 太
看護福祉科学部	教授	小林 正伸
	大学教育開発センター教授	ハワード・ターノフ


リハビリテーション科学部	教授	岩瀬 義昭
予防医療科学センター	教授	吉田 純一
認定看護師研修センター	教授	樋口 春美

## 新任教員




**教授**  
**幸村 近** (こうむらちかし)

旭川医科大学医学部医学科卒業。旭川医科大学医学部附属病院第一内科医員、Massachusetts General Hospital, Research Fellow、滝市立病院内科医長、国立病院機構道北病院循環器科医長、市立旭川病院循環器内科診療部長などを経て、本学就任。医学博士。




**看護福祉学部講師**  
(看護学科(臨床看護学・感染看護学))  
**山田 佳緒里** (やまだ かのる)

東北労災看護専門学校卒業。本学認定看護師研修センター感染管理分野、同大学院看護福祉学研究所修士課程感染看護学専攻NP養成コース感染症看護CNSコース修了。東北労災病院看護師、北海道脳神経外科記念病院作業療法士主任、専門学校日本福祉リハビリテーション学院作業療法学科科長などを経て、本学就任。




**予防医療科学センター講師**  
(医学部門)  
**柳 紘子** (やなぎ ひろこ)

東京医科大学医学部医学科卒業。北海道大学大学院医学研究科医学専攻修士課程修了。函館中央病院耳鼻咽喉科医、Safor/Burnham Medical Research Institute Intern、北海道大学病院耳鼻咽喉科医員などを経て、本学就任。医学博士。



**教授**  
**松尾 淳司** (まつお じゅんじ)

神戸大学医学部保健学科検査技術科学専攻卒業。同大学院医学系研究科保健学専攻修士課程修了。北海道大学医学部保健学科検査技術科学専攻助教、オハイオ州立大学医学部客員研究員、北海道大学大学院保健科学研究科講師などを経て、本学就任。医学博士。




**リハビリテーション科学部准教授**  
(作業療法学科)  
**坂上 哲生** (さかうえ てつよし)

札幌医科大学短期大学部作業療法学科卒業。北翔大学大学院人間福祉学研究所人間福祉学専攻修士課程修了。クランク病院作業療法士、北海道脳神経外科記念病院作業療法士主任、専門学校日本福祉リハビリテーション学院作業療法学科科長などを経て、本学就任。




**予防医療科学センター講師**  
(医学部門)  
**酒井 正人** (さかい まさと)

札幌医科大学医学部医学科卒業。王子総合病院初期研修医、北海道大学病院眼科後期研修医、函館中央病院眼科医を経て、本学就任。



**講師**  
**近藤 啓** (こんどう けい)

札幌医科大学福祉専門学校臨床検査技師科卒業。札幌医科大学大学院医学研究科地域医療人間総合医学専攻修士課程修了。札幌医科大学技術員臨床検査技師、札幌医科大学技術員医療検査専門員を経て、本学就任。医学博士。




**予防医療科学センター教授**  
(医学部門)  
**工藤 俊彦** (くどう たかひこ)

北海道大学医学部医学科卒業。同大学院医学研究科内科学専攻修士課程修了。市立稚内病院内科医、同内科学科副医長、米国ベイヤー医科大学研究員、市立札幌病院消化器内科医長、同消化器内科副部長、北海道大学病院消化器内科講師などを経て、本学就任。医学博士。




**認定看護師研修センター専任教員**  
(認知症看護分野)  
**早坂 史子** (はやさか ふみこ)

慶應義塾大学医学部厚層厚女子学院卒業。本学大学院看護福祉学研究所看護学専攻修士課程修了。慶應義塾大学病院看護師、医療法人社団百仁会介護老人保健施設フェイスプリング核木看護主任、吉小牧看護専門学校非常勤講師などを経て、本学就任。



**講師**  
**江本 美穂** (えもと みほ)


東京医科大学医学部保健衛生学科検査技術科学専攻卒業。北海道大学大学院医学研究科医学専攻修士課程、同保健学専攻修士課程修了。東京女子医科大学医学部特任助教、札幌医科大学医学部神経内科学研究支援者などを経て、本学就任。医学博士。



**予防医療科学センター教授**  
(医学部門)  
**岡村 敏弘** (おかむら としひろ)


日本歯科大学新潟歯学部卒業。同大学院歯学研究科臨床系専攻修士課程修了。北海道生活福祉保健医療専門学校指導員、本学歯学部非常勤講師、厚生労働省北海道厚生局医療指導課指導医(厚生労働技官)などを経て、本学就任。歯学博士。

薬学部	助手(分子生命科学)	森 宏
	助手(薬理学)	遠藤 朋子
歯学部	助教(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))	竹田 洋輔
	助教(生体機能・病態学系(顎顔面口腔外科学))	原田 文也
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	松本 光生
		渡邊 裕之
		金田 裕郎
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))	木村 聡
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(クランプ/インプラント補綴学))	山田 哲郎
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進補綴学))	熊谷 渉
	任期制助手(生体機能・病態学系(顎顔面口腔外科学))	若林 茉梨絵
	任期制助手(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))	富田 侑希
	任期制助手(口腔構造・機能発育学系(小児歯科学))	藤田 裕介



**講師**  
**高橋 祐輔** (たかはし ゆうすけ)


金沢大学医学部保健学科検査技術科学専攻卒業。金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻修士課程、札幌医科大学大学院医学研究科博士課程修了。札幌医科大学附属病院検査部臨床検査技師、札幌医科大学附属病院検査部医療検査専門員を経て、本学就任。医学博士。



**予防医療科学センター講師**  
(医学部門)  
**河野 豊** (かわの ゆたか)


札幌医科大学医学部卒業。同大学院医学研究科内科学専攻内科学(第4)博士課程修了。札幌中央病院医師、札幌医科大学臨床検査医学講座助教、米国Boston, Dana-Farber Cancer Institute Department of Medical Oncology 博士研究員などを経て、本学就任。医学博士。

看護福祉学部	助教(看護学実践基礎看護学)	米川 弘樹
	助教(看護学実践基礎看護学)	新見 千穂
心理学部	助教(臨床心理学)	河村 麻果



**看護福祉学部准教授**  
(看護学科(母子看護学・母性看護学))  
**常田 美和** (つねた みわ)


札幌医科大学保健医療学部看護学専攻卒業。札幌医科大学大学院保健医療学研究所修士課程看護学専攻女性健康看護学分野修了。旭川厚生病院助産師、札幌保健医療大学看護学部看護学准教授、放送大学客員准教授などを経て、本学就任。



**予防医療科学センター講師**  
(医学部門)  
**齋藤 晶理** (さいとう あきみち)


北海道大学医学部医学科卒業。同大学院医学研究科医学専攻修士課程修了。北海道大学医学部附属病院研修医、釧路市医師会病院循環器内科医員、市立釧路総合病院心臓血管内科医長、北海道大学病院循環器内科医員などを経て、本学就任。医学博士。

## 昇任教員




**薬学部講師**  
(創薬化学講座)  
**金 尚永** (きん さんよん)

徳島大学薬学部薬学卒業。同大学院薬学教育研究科薬学専攻博士前期課程、同社会人特別選拔修了。本学薬学部助教を経て、講師昇任。薬学博士。




**大学教育開発センター准教授**  
**佐藤 圭史** (さとう けいし)

文教大学情報学部情報システム学卒業。筑波大学大学院地域研究科地域研究専攻(ヨーロッパ地域)修士課程修了。ワルシャワ大学東欧学研究所研究員、グラスコウ大学中東欧研究所(英国)客員研究員、本学大学教育開発センター歯学部講師などを経て、准教授昇任。比較社会文化学博士。




**教授**  
(総合教育系(歯学教育開発学))  
**伊藤 修一** (いとう しゅういち)

本学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。本学特別研究員、Medical college of Georgia, Department of Oral biology 研究員、本学歯学部歯科保存学第二講座講師、同口腔機能修復・再建学系口腔制御歯学分野講師、同准教授などを経て、教授昇任。歯学博士。



**歯学部准教授**  
(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))  
**豊下 祥史** (とよした よしふみ)

北海道大学歯学部進修課程卒業。同歯学研究科博士課程修了。北海道大学大学院歯学研究科医員、本学歯学部口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野助教、同講師、本学歯科医科臨床研修科副科長、同大学院歯学研究科博士課程講師などを経て、准教授昇任。歯学博士。



**歯学部講師**  
(生体機能・病態学系(歯科麻酔科学))  
**金澤 香** (かなざわ かおる)

松本歯科大学歯学部歯科学卒業。本学大学院歯学研究科口腔外科専攻修士課程修了。山形県立日本病院医員、北海道医療大学病院(歯科内科クリニック)臨床助手、本学歯学部生体機能・病態学系歯科麻酔科学分野助教などを経て、講師昇任。歯学博士。

## 配置替昇任

# 2018年度 入試 結果報告

本年度の志願者数は  
4,739名

本年度入試の志願者総数は、前年比8.1%減少の4,739名となりました。志願者の最も多かった学科は看護学科1,169名で、次に薬学部808名という結果でした。

編入学試験の  
志願者総数は21名

本学全体では21名が編入学を志願しました。うち9名が入学し、実質競争倍率は2.3倍でした。

専門学校志願者の9割以上が  
AO方式入試を利用

毎年志願者の多くがAO方式入試を利用しています。志願者は32名で、全体の約91%を占めました。

■2018年度入試結果  
北海道医療大学

歯学部附属歯科  
衛生士専門学校

	薬学部		歯学部		看護福祉学部		心理科学部		リハビリテーション科学部			歯科衛生科
	看護学科	臨床福祉学科	臨床心理学	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚療法学科						
AO方式入試	志願者数	33名	11名	48名	10名	13名	43名	20名	22名	32名	32名	
	受験者数	33名	11名	48名	10名	13名	43名	20名	22名	32名	32名	
	合格者数	19名	10名	10名	9名	12名	15名	8名	19名	19名	32名	
	入学者数	19名	10名	10名	7名	12名	15名	8名	19名	19名	31名	
	実質倍率	1.7倍	1.1倍	4.8倍	1.1倍	1.1倍	2.9倍	2.5倍	1.2倍	1.0倍	1.0倍	
一般推薦入試	志願者数	27名	1名	38名	1名	2名	21名	14名	7名	0名	0名	
	受験者数	27名	1名	38名	1名	2名	21名	14名	7名	0名	0名	
	合格者数	27名	1名	21名	1名	2名	14名	8名	4名	0名	0名	
	入学者数	26名	1名	21名	1名	1名	14名	8名	4名	0名	0名	
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.8倍	1.0倍	1.0倍	1.5倍	1.8倍	1.8倍	1.8倍	1.0倍	
指定校 特別推薦入試	志願者数	30名	3名	28名	16名	13名	14名	5名	14名	—	—	
	受験者数	30名	3名	28名	16名	13名	14名	5名	14名	—	—	
	合格者数	30名	3名	28名	16名	13名	14名	5名	14名	—	—	
	入学者数	30名	2名	28名	12名	13名	13名	5名	14名	—	—	
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	—	
社会人特別選抜	志願者数	1名	2名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	—	
	受験者数	1名	2名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	—	
	合格者数	0名	2名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	—	
	入学者数	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	—	
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	—	
一般前期入試 (大学)	志願者数	1日目 200名 2日目 152名	1日目 53名 2日目 33名	1日目 388名 2日目 292名	1日目 90名 2日目 77名	1日目 124名 2日目 96名	1日目 146名 2日目 121名	1日目 163名 2日目 138名	1日目 114名 2日目 97名	2名		
	受験者数	1日目 191名 2日目 142名	1日目 48名 2日目 27名	1日目 382名 2日目 282名	1日目 88名 2日目 72名	1日目 121名 2日目 88名	1日目 144名 2日目 119名	1日目 159名 2日目 133名	1日目 111名 2日目 94名	2名		
	合格者数	144名	56名	105名	97名	116名	62名	76名	104名	2名		
	入学者数	55名	7名	36名	11名	7名	25名	12名	15名	1名		
	実質倍率	2.3倍	1.3倍	6.3倍	1.6倍	1.8倍	4.2倍	3.8倍	2.0倍	1.0倍		
一般後期入試	志願者数	54名	65名	64名	17名	28名	32名	31名	28名	1名		
	受験者数	46名	53名	60名	17名	26名	31名	30名	27名	1名		
	合格者数	16名	48名	11名	17名	23名	13名	9名	8名	1名		
	入学者数	11名	10名	8名	1名	3名	10名	1名	0名	1名		
	実質倍率	2.9倍	1.1倍	5.5倍	1.0倍	1.1倍	2.4倍	3.3倍	3.4倍	1.0倍		
センター前期A入試	志願者数	190名	119名	196名	59名	92名	110名	102名	83名	—		
	受験者数	190名	119名	196名	59名	92名	110名	102名	83名	—		
	合格者数	73名	110名	45名	49名	72名	34名	46名	57名	—		
	入学者数	12名	17名	8名	4名	7名	9名	5名	4名	—		
	実質倍率	2.6倍	1.1倍	4.4倍	1.2倍	1.3倍	3.2倍	2.2倍	1.5倍	—		
センター前期B入試	志願者数	86名	48名	101名	51名	82名	66名	81名	59名	—		
	受験者数	86名	48名	101名	51名	82名	66名	81名	59名	—		
	合格者数	43名	46名	24名	49名	79名	18名	30名	46名	—		
	入学者数	8名	5名	2名	7名	19名	4名	3名	6名	—		
	実質倍率	2.0倍	1.0倍	4.2倍	1.0倍	1.0倍	3.7倍	2.7倍	1.3倍	—		
センター後期入試	志願者数	35名	30名	14名	16名	30名	21名	15名	12名	—		
	受験者数	35名	30名	14名	16名	30名	21名	15名	12名	—		
	合格者数	20名	29名	6名	15名	29名	7名	8名	5名	—		
	入学者数	3名	4名	3名	2名	4名	0名	1名	1名	—		
	実質倍率	1.8倍	1.0倍	2.3倍	1.1倍	1.0倍	3.0倍	1.9倍	2.4倍	—		
TOTAL	志願者数	808名	365名	1,169名	337名	481名	574名	569名	436名	35名		
	受験者数	781名	342名	1,149名	330名	468名	569名	559名	429名	35名		
	合格者数	372名	305名	250名	253名	347名	177名	190名	257名	35名		
	入学者数	164名	57名	116名	45名	67名	90名	43名	63名	33名		
	実質倍率	2.1倍	1.1倍	4.6倍	1.3倍	1.3倍	3.2倍	2.9倍	1.7倍	1.0倍		

## 心理科学部の関口真有助教が学会賞を受賞

このたび、心理科学部臨床心理学の関口真有助教が「第32回石川記念賞」を受賞し、2018年6月9日(土)に名古屋国際会議場で開催された第59回日本心身医学会総会で授賞式と受賞講演が行われました。

一般社団法人日本心身医学会では、心身医学領域の若手研究者の研究を推奨することを目的として、学会誌「心身医学」に掲載された論文の中から、特に優れた研究の著者に対して、石川記念賞を贈呈しています。



論文概要の前で撮影された日本心身医学会福土審理事長(東北大学医学部心療内科教授)とのツーショット。福土理事長は第1回石川記念賞の受賞者です。

受賞論文

児童青年期の1型糖尿病患者の血糖コントロールに影響を与える心理的要因の検討

## 言語聴覚療法学科の高倉祐樹助教が メディカルスタッフ最優秀賞を受賞

2018年5月23日(水)から26日(土)に札幌市で開催された第59回日本神経学会学術大会において、リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の高倉祐樹助教(北海道医療大学病院言語聴覚治療室勤務)がメディカルスタッフ最優秀賞を受賞しました。この賞は、採択された約140のメディカルスタッフ演題の中から、抄録査読にて8演題が候補としてノミネートされ、学会当日の口演発表での審査を経て、1演題が選出される賞です。



演題

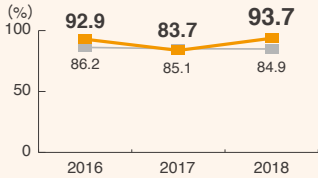
Primary progressive apraxia of speech (PPAOS) における特異的な単語発話の特徴

### 薬学部

#### (第103回 薬剤師国家試験)

2018年の新卒合格率は93.7%と全国平均を上回る好成績

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)

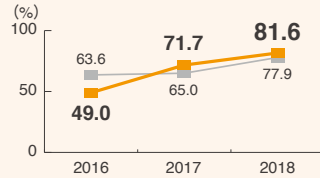


### 歯学部

#### (第111回 歯科医師国家試験)

2018年の新卒合格率は81.6%と全国平均を上回る好成績

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)

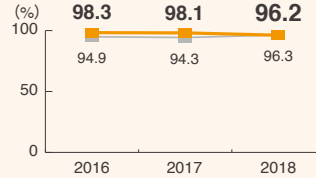


### 看護福祉学部/看護学科

#### (第107回 看護師国家試験)

安定の合格率。全卒業生の98.8%が看護師免許を取得

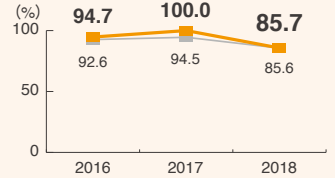
■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



#### (第104回 保健師国家試験)

新卒合格率は85.7%。11名が看護師と保健師の同時取得を実現

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)

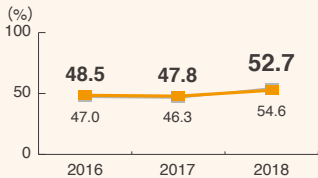


### 看護福祉学部/臨床福祉学科

#### (第30回 社会福祉士国家試験)

社会福祉士国家試験は長期にわたり安定した合格実績

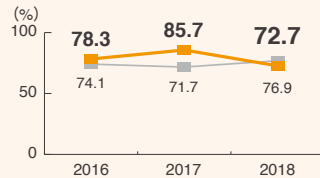
■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



#### (第20回 精神保健福祉士国家試験)

合格者の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを取得

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



#### (第30回 介護福祉士国家試験)

介護福祉士は、初の国家試験で全員合格

■2018年合格率(新卒)

**100.0%**

[養成施設全国平均88.0%]

### リハビリテーション科学部/理学療法学科

#### (第53回 理学療法士国家試験)

2018年の新卒合格率は97.2%と全国平均を上回る好成績

■2018年合格率(新卒)

**97.2%**

[全国平均87.7%]

### リハビリテーション科学部/作業療法学科

#### (第53回 作業療法士国家試験)

2018年の新卒合格率は92.3%と全国平均を上回る好成績

■2018年合格率(新卒)

**92.3%**

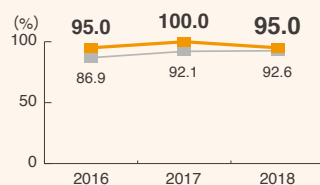
[全国平均85.2%]

### リハビリテーション科学部/言語聴覚療法学科

#### (第20回 言語聴覚士国家試験)

2018年の新卒合格率は95.0%と全国平均を上回る好成績

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)

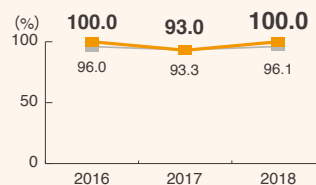


### 歯学部附属歯科衛生士専門学校

#### (第27回 歯科衛生士国家試験)

歯科衛生士国家試験は開校以来の資格取得率99.9%!

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



## 国際交流

## INTERNATIONAL EXCHANGE

### スウェーデン・イエテボリ大学歯学部との歯学部間交流協定を改定

～イエテボリ大学歯科衛生学科と本学歯学部附属歯科衛生士専門学校との学生交換交流を追加～

本学歯学部では、2014年度からイエテボリ大学歯学部との学部間交流協定を締結し、双方学部学生の短期交換留学、本学大学院歯学研究科の大学院生派遣による共同研究を行っています。このたび、2018年度歯学部短期交換留学生の訪問に合わせて、2018年3月12日(月)にイエテボリ大学歯科衛生学科と専門学校との学生交換交流を加えた両学部間の交流協定の改定を行いました。



### バングラデシュ・シティ歯科大学と学部間交流協定を締結

2018年4月30日(月)に、齋藤歯学部長と国際交流推進センターのRiasat HASAN助教がバングラデシュ・ダッカを訪問し、シティ歯科大学との学部間学術交流協定締結の調印式が行われました。シティ歯科大学から本学には多くの大学院生が入学しており、今後さらに学生および教員の盛んな交流が期待されます。調印式には在バングラデシュ日本国大使館から伊藤公使が陪席し、ご祝辞を賜りました。

### タイ・マヒドン大学からの短期研修を受け入れました。(歯学部)

マヒドン大学歯学部から、Wiyanan Pitaksinsukさん、Witchapat Kengtongさん、Tanai Laisiroengraiさんの3名が来日し、2018年3月19日(月)～30日(金)の約2週間、本学歯学部、歯科クリニック及び大学病院で研修を行いました。放課後には合気道部やお茶会への参加、週末は小樽旅行やウィンタースポーツに挑戦するなど、充実した日々を過ごしたようです。マヒドン大学からの研修受け入れは今回で3回目となり、今後も両学部間で活発な交流が行われることが期待されます。



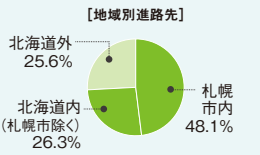
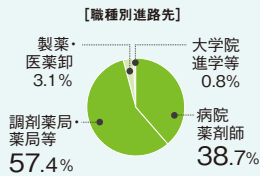


本学卒業生への評価の高さが、求人者の質・量に直結。  
より深い知識修得をめざし大学院へ進学する人も。

## 薬学部

2018年も5,000人を超える求人  
6年制移行後も高い就職率を維持

■2018年3月卒業生の就職先

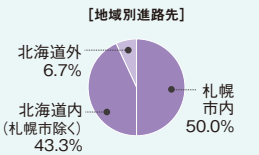
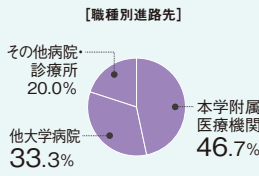


求人数	薬剤師…5,496人 MR・研究・開発職…413人
-----	------------------------------

## 歯学部

卒業後は臨床能力の向上を  
めざして臨床研修医の道へ

■2018年3月卒業生の就職先

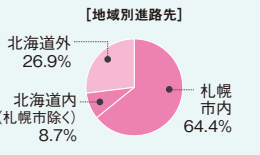
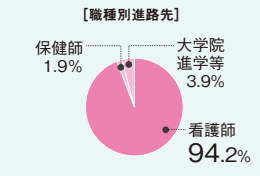


求人数	歯学部…1,933人
-----	------------

## 看護福祉学部／看護学科

卒業生は札幌と首都圏を中心に  
全国の総合病院で活躍

■2018年3月卒業生の就職先

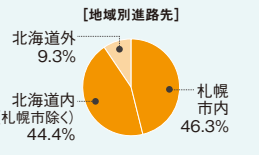
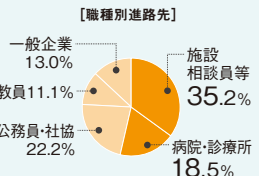


求人数	看護師…12,960人 保健師…351人
-----	-------------------------

## 看護福祉学部／臨床福祉学科

施設や病院のほか、公務員、教員、  
一般企業とさまざまな分野で活躍

■2018年3月卒業生の就職先

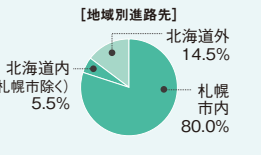
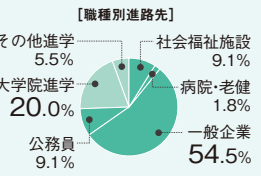


求人数	医療機関相談員…189人 福祉施設相談員・介護職員等…2,299人 一般事務・その他…4,256人
-----	---

## 心理学部／臨床心理学科

業界や業種を問わず、  
専門性を生かした多彩な進路です

■2018年3月卒業生の就職先

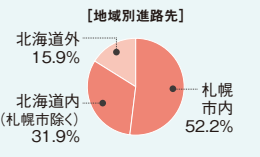
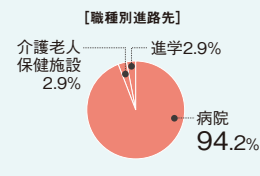


求人数	心理職…108人 一般事務・その他…4,256人
-----	-----------------------------

## リハビリテーション科学部／理学療法学科

第2期生も9割以上が病院へ就職  
今後の活躍に期待

■2018年3月卒業生の就職先

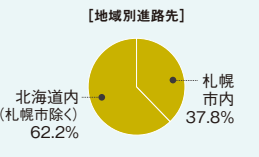
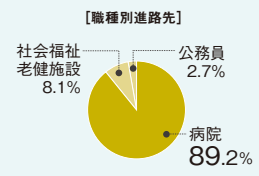


求人数	理学療法士…2,323人
-----	--------------

## リハビリテーション科学部／作業療法学科

第2期生の8割以上が、作業療法士  
として病院と介護老人保健施設へ

■2018年3月卒業生の就職先

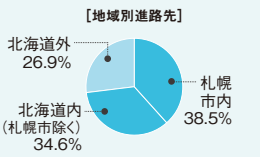
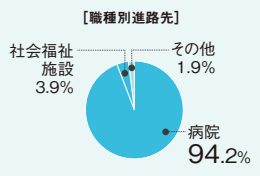


求人数	作業療法士…1,933人
-----	--------------

## リハビリテーション科学部／言語聴覚学科

2018年卒業生の9割以上が  
病院の言語聴覚士として活躍

■2018年3月卒業生の就職先

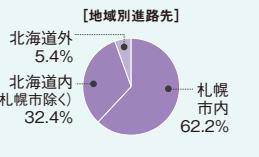
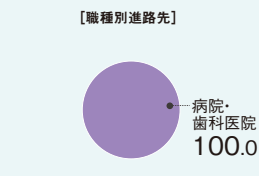


求人数	言語聴覚士…1,267人
-----	--------------

## 歯学部附属歯科衛生士専門学校

開校以来32期連続  
就職希望者全員が就職

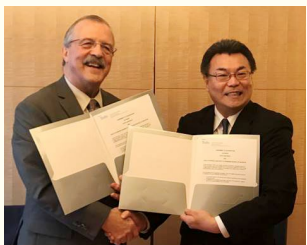
■2017年3月卒業生の就職先



求人数	歯科衛生士…617人
-----	------------

## アメリカ・タフツ大学歯学部と 学部間交流協定を締結

2018年4月10日(火)に、ANAインターコンチネンタルホテル東京において、タフツ大学歯学部と歯学部との間で学部間学術交流協定締結の調印式が行われました。式には、タフツ大学歯学部の開学150周年を記念して日本で開催される同窓会記念行事への出席のために来日されていたHF Thomas歯学部長、NR Mehta 国際交流担当副歯学部長、そして、本学から斎藤隆史歯学部長、歯学部の古市保志教授、広瀬由紀人准教授、国際交流推進センターのRiasat HASAN助教が参加しました。タフツ大学歯学部はボストン市内に位置し、全米でも古い歴史を有する歯学部であり、卒業・卒前教育ともに古くから多くの海外留学生を受け入れています。また、近年は優れた歯科医学教育の実践および多職種連携の取り組みを行っている大学として注目を集めています。



## 薬学生セミナー「学内就職相談会」を開催

2018年4月20日(金)、薬学部第5・6学年の学生を対象とした2018年度薬学生セミナー「学内就職相談会」が開催され、病院・薬局ほか185団体から約300名の薬剤部門責任者・人事担当者などに来学いただきました。第5学年に対しては薬剤師の役割・業界・仕事等の内容についての説明、第6学年に対しては採用活動に係る相談・説明等をしていただきました。参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、真剣な表情で説明を受けるなど、最後まで大きな賑わいをみせていました。

本学では各学部に就職委員会を設置し、就職ガイダンスや専門講師を招いての各種セミナーを数多く実施するなど、学生のより確実な就職に向けて、教職員が一丸となってきめ細やかな支援をしています。



本学への求人申し込み、就職に関するお問い合わせ先:  
学生支援課(就職担当) MAIL job@hoku-iryu-u.ac.jp TEL 0133-23-1102

あ の と き の “ ち ょ っ と い い 話 ” 、 今 ま さ に 進 ん で い る “ 新 し い 取 り 組 み ” 。 北 海 道 医 療 大 学 が 、 こ れ か ら 未 来 へ 向 か う 姿 を 探 る た め に 、 本 学 の 歩 み を “ 知 る 人 ” 、 “ つ く る 人 ” に 、 お 話 を う か が っ て い け ま す 。



三上 章 さん  
(薬学部1期生)

本学卒業後、製薬会社勤務を経てサン調剤薬局を開業。サングループ代表取締役として、青森県を中心に26店舗の調剤薬局を展開し、製薬業、福祉事業も運営する。また、本学卒業生を中心に活動を行う後援会では会長を務めている。

チャレンジとコミュニケーションで、  
未来の医療をつくってください。

やりたいことを、自分でやる。

国鉄職員として五稜郭駅で勤務していた父の影響から、北海道への憧れを持っていた私は、1974年、東日本学園大学(現・北海道医療大学)の1期生として入学しました。当時は薬学部のみ。教養課程は、今はなき音別キャンパスで、専門課程は、当別キャンパスで学びました。学生数は今よりずっと少なかったのですが、教養課程は全寮制ということもあり、仲間同士で議論を交わすなど、とても濃密な学生生活でした。また、先生方との距離も近く、晩ごはんをご馳走になったり、ご自宅へ遊びに行かせてもらったり、ときには厳しく叱ってくれたり。まるで家族のような人間関係の中で、深い愛情を受けて育ちました。

卒業後は、エーザイ株式会社に入社し、プロパーとして11年間勤務。病院の医療スタッフなどと交流する中で、ひとつの思いが浮かび上がってきました。それは、自分も患者さんと直接関わり、もっと患者さんの力になれる仕事がしたい、ということ。そこで、自分で調剤薬局をやろうと決意しました。銀行、建築事務所、職業安定所など多彩な現場で活躍する友人たちに、起業の相談に乗ってもらいながら、第1号の調剤薬局をオープンしたのは1988年。いつの間にか、30周年を

迎えました。現在は、26店舗の調剤薬局を、青森県を中心に展開しています。また、地元で栽培された生薬を使い、安全性の高い医薬品をつくるために製薬工場も設置。総合感冒薬「コールドナイン」が製品化されており、2018年夏には胃腸薬も発売する予定です。加えて、介護保険制度スタート時に取得したケアマネージャーの資格を生かし、グループホームも運営しています。

やりたいと思ったことは、やってみる。そんなチャレンジ精神が自然と身についていたのは、いろいろなことにチャレンジできる大学の環境があったからだと思います。「音別～当別マラソン」がその象徴です。

離れていても、同じ大学の仲間。

1977年の夏、第1回学園祭が開催されることになりました。北の大地に足を踏み入れて4年。決して優秀な学生ではなかった私にも、濃密な学生生活を送らせてくれたこの新しい大学のために、私も何かできないだろうかと考えていました。そこで思いついたのが、「音別～当別マラソン」。両キャンパス間350kmもの距離を歩き切るという、今思うと大変無謀な企画です(当時も無謀だと思っていましたが)。しかし、思い切ったことをやれば、新聞記事などにも大学の名前が掲載され、宣伝効果が期待できると思っていました。企画コンセプトも、しっかりありました。音別と当別をつなぐ。物理的な距離は離れていても、みんな同じ大学の仲間だということを、後輩たちに伝えたいからです。

参加したのは、私が所属していた剣道部の部員を中心とする有志17名。もちろん、1日で350kmを歩き切ることには不可能です。学園祭スタートの1週間前に音別キャンパスを出発し、行く先々の街のお寺などに、寝床と食事を提供してもらいました。また、トラックの運転手さんたちの間でも話題になり、アイスキャンディーなどを差し入れしてくれる人も増えて

いきました。たとえ無謀に見えることでも、強い思いでチャレンジすれば、必ず応援してくれる人があらわれるものです。そして、人とのふれあい、人の支えが、あれほどまで力になると実感できたことは、卒業後の医療人としてのキャリアにも生きている貴重な経験となりました。

結局、当別キャンパスにたどり着き、仲間や先生方の歓声に迎えられたのは、出発から10日後。学園祭最終日に、何とか間に合いました。1日目、2日目は辛くて何度も断念しようと思いましたが、10日目はむしろ元気いっぱい、ゴール後はどんなことでもできそうな気分でした。

情報技術に、かえられないこと。

大切な仲間や尊敬する恩師に出会い、学生時代にしかできないチャレンジを通して、医療とは何かを教えてくれた母校が、私は大好きです。卒業後も給料が出るたびにキャンパスへ足を運んだのも、起業後に医療大の卒業生を積極的に採用してきたのも、後援会の活動に全面的に協力してきたのも、すべてそんな愛校心からです。私たち北海道医療大学は、医療現場で即戦力となり、これからの医療をリードする医療人を育成し続けていく、ひとつの大きなチームだと思っています。

医療大の学生のみならず、そして、卒業生のみならず。学部学科を越えたつながり、そして、全国2万人以上となった卒業生のネットワークを生かして、できるだけ多くの人たちと出会い、語り合ってください。たとえ学部学科や年齢などは違っても、私たちはみんな、同じ大学で医療を学んだ仲間です。

そして、仲間たちとともに多彩な経験を積み、コミュニケーション能力の高い医療人をめざしてください。これからの医療現場では、今までは人が担ってきたさまざまな業務や役割がAIやIoTにかわっていくことでしょう。しかし、人にしかできないことがあります。それは、コミュニケーションです。病気を治したい、という思いを共有すること。それこそが、患者さんに感謝される医療につながります。そして、感謝された経験は、医療人として努力を続ける情熱になるはずですから。



三上さんが企画し、自ら中心メンバーとして350kmを完歩した「音別～当別マラソン」は、1977年当時の新聞にも取り上げられた。記事にも書かれている「母校の名を盛り立ててやろう」という企画の狙い通り、本学のバイタリティあふれる学生が注目を集めた。



2019年4月、札幌あいの里キャンパスに

# 医療技術学部 臨床検査学科を新設します。

[設置認可申請中] 掲載内容はすべて予定であり、変更となる場合があります。

科学的根拠に基づいた検査データの提供などを通して、医療の進歩に貢献してきた臨床検査技師。

しかし、ますます高度化、複雑化する医療現場では、より幅広い知識と優れた技術を備えた、

高度専門職が必要とされています。本学は、このような社会的要請に

対応するため、2019年4月、新たに「医療技術学部 臨床検査学科」を開設。

臨床検査技師を養成する、道内初の4年制私立大学となります。

そして、6学部9学科の医療系総合大学として、チーム医療を学ぶ教育環境がさらに充実。

これからの医療をリードする、高度な医療人を育成します。

## 学科DATA

4年制

入学定員60名

札幌あいの里キャンパス

目標とする資格:

●臨床検査技師

その他取得可能な資格:

●食品衛生管理者 ●食品衛生監視員

●健康食品管理士

## 医療技術学部 臨床検査学科の特色

### 北海道内で初の、 4年制私立大学。

北海道では3年制専門学校を中心に臨床検査技師の養成を行ってきました。本学では臨床検査の知識や技術だけではなく、医療人としての人間性、チーム医療・地域医療・在宅医療の現場で必要となる多職種理解、コミュニケーション能力などを包括的に学ぶ、4年制の医療系総合大学ならではのハイレベルな教育を展開。臨床検査学をテーマとした卒業研究なども通して、これからの医療をリードする高度な専門職、臨床検査研究に従事する研究職を養成します。

### 大学ならではの、 先進医療教育。

臨床検査の技術を習得するための基本的な機器だけではなく、即戦力となる高度な専門性を養うために、臨床検査の現場で実際に使用されている高精度の超音波画像解析装置、自動分析機器、パーチャルスライドシステムなどを整備。さらに、ゲノム医療やオーダーメイド医療、再生医療などの先進医療教育を視野に入れた遺伝子解析装置、質量分析装置、細胞培養設備なども導入。大学ならではのハイスペックな環境で、臨床検査の最新の知識と技術を学びます。



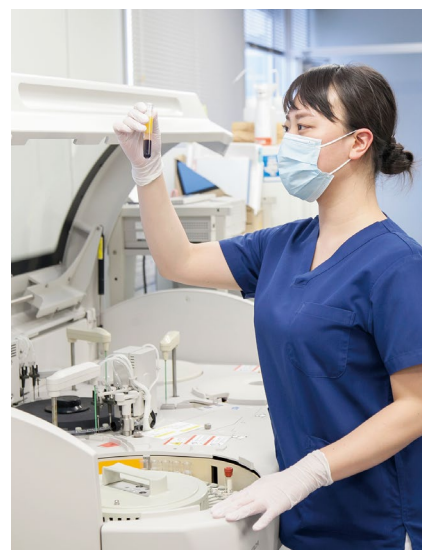
学びの舞台は、札幌あいの里キャンパス。JRあいの里教育大駅から徒歩5分とアクセスの利便性に優れており、北海道医療大学病院、地域包括ケアセンターを有しています。臨床検査学科の講義室・実習室は、総合図書館分室、食堂、学生ホールなども備えた既設の講義棟を改修し整備。臨床検査技師を養成する道内初の4年制私立大学として、最先端の環境で高度な教育を展開します。

### 学部学科の枠を越えて、 チーム医療を学ぶ。

保健・医療・福祉に携わる多職種との連携・協働がますます重要になる中、臨床検査技師にも、チーム医療の一員としての役割が求められています。本学は、医療系総合大学であるメリットを生かし、他の学部学科で学ぶ仲間と合同でグループワークやディスカッションを行う機会を豊富に設けています。また、他の学部学科の教授陣から、臨床検査以外の分野の知識や技術を学ぶ授業も多数。チーム医療、多職種連携への理解を深め、幅広い視野を得ることができます。

### 総合病院中心の、 体系的な臨床実習。

医療現場からの本学に対する信頼は厚く、札幌市内の総合病院を中心に道内各地の実習施設を多数確保。チーム医療・地域医療をリードする現場で、臨床検査技師に求められる知識や技術、医療人としてのコミュニケーションを学ぶことができます。また、札幌あいの里キャンパスの北海道医療大学病院と地域包括ケアセンターや、超高齢社会を見据えた福祉施設での体験実習、OSCEの導入や事前事後実習の徹底など、本学独自の体系的な実習教育を行います。



### 多様な資格と、 広がる活躍の場。

臨床検査技師受験資格だけではなく、食品衛生管理者任用資格、食品衛生監視員任用資格、そして、健康食品管理士受験資格が取得可能。食品関連資格に対応しながら、保健・医療・福祉を総合的に学ぶカリキュラムを展開し、多彩な分野で活躍できるこれからの時代の臨床検査技師を養成します。卒業後は、幅広い視野と高度な専門性を生かし、医療機関だけではなく、製薬・試薬・治験分野、食品業界、検査・健康機器メーカーなどへの就職も想定しています。



## 私の学生時代

看護福祉学部  
臨床福祉学科

准教授 佐藤 園美



紆余曲折しながら現在に至る私の人生で、「学生時代」と聞き最初に思い浮かんだのが、日本社会事業学校(日本社会事業大学に併設)研究科での日々です。バックグラウンドが全く異なる約80名とともに一緒に机を並べ、福祉について真剣に学んだ1年間でした。学生の年齢は23歳(大学卒業直後)から50代後半、福祉の分野で長く働いてきた人たちもいれば、それまで福祉とは全く縁のない会社等で仕事をしてきた人(私もその一人)も少なからずいました。一人ひとり何らかの事情や決意を胸に、卒業後は福祉の分野で専門職として仕事をしようと決めた人たちです。

各科目を担当する教師陣は、日本社会事業大学の先生方をはじめとして、当時福祉の各分野で第一人者と言われた人たちでした。授業ではディスカッションも頻繁に行われ、全く違った経験や価値観を持つ人たちが活発に意見を戦わせる討議の内容は、とても興味深いものでした。例えば、1982年にアメリカで起こった「ベビー・ドゥ事件(重い障がいをもつ新生児の治療停止の問題)」に関するクラス全体での討議では、様々な登場人物の思いについて述べていく中で、いつの間にか「子どもを産み育てること」への男女の価値観の違いが浮き彫りになりました。体験も踏まえ語るクラスメイトの言葉に、一人ひとりが真剣に考え発言する、熱気を帯びた授業の様子が今でも目に焼き付いています。まっすぐな学生の眼差しは、時に授業の内容に対する質問



クラスの中で8名だけが日本社会事業大学の学生寮で暮らしていました。写真はその仲間たち。真ん中にいるのが私です。

や疑問として先生方へぶつけられることもあり。ある先生は「研究科での授業は私たちにとっても学ぶことが多く、いい加減な準備で授業はできません。真剣勝負みたいですね」と笑っていらっしゃいました。

1年間で国家試験の受験資格取得をめざすカリキュラムだったため、課題提出や勉強に追われる大変な日々で、苦しいことや困ったこともたくさんあったはずなのに、当時のことを思い出すと、個性的な人たちと豊かな時間を一緒に過ごせて「楽しかったなあ」という感覚だけが残っています。

# 私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は佐藤 園美准教授と桜庭 聡助教のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

## 私の学生時代

リハビリテーション科学部  
作業療法学科

助教 桜庭 聡



私が学生時代を過ごした北海道大学に入学したのは13年前、そのまま大学院博士後期課程修了までトータル9年間という長い学生生活を送りました。入学当初は「どのサークルに入ってやろうか?」などとワクワクしていたものですが、当時自分が見学したテニスのサークルはほとんどがいゆる「飲みサー」。テニスなんてお飾り程

度の活動でアフターの交流会がメインイベントでした。かと言って、部活のような意識高い活動も求めていなかった中途半端な自分は、どのサークルにも所属することなく、大学の講義が終わったらそそくさと浪人生の時にお世話になった某予備校でのアルバイトに向かう日々。サークルとのご縁が無かったのでしょね。その代わり、予備校のアルバイトでは社会集団の中で働く心構え、生徒さんへの学習指導や進路指導の方法、今でも交流がある一緒に働いた先輩後輩など本当にかけがえのないものを得ることができました。「お金を稼ぐ」というよりも単にお試し感覚で社会経験を積みたいだけでアルバイトを始め、大学4年生で長期実習が始まったらスパッと辞めてしまえ…などとよこしまな考えを持っていたことが伝わってしまったのか、バイトリーダーなども押しつけられてしまい、ズルズル続けて気がついたらほぼ9年間やり続けていました。今思うと、アルバイトでやっていた学習指導や進路指導などは「おまごとレベレ」だったの



洞爺湖にみんなで旅行に行ったときの写真(背景は真暗ですが…)。下で寝そべっているのが私。学生のうちはよくみんなで温泉やキャンプなどに行きました。

かも知れませんが、この9年間で培った経験は確実に今、生業として生きていることを実感します。大学生の時は、自分が大学教員になる考えなど毛頭無く、作業療法士として臨床で患者さんとワハハと笑いながらリハビリをして、先の飲みサーでいうテニス活動のようにオマケ程度に研究ができれば良いな、としか考えていませんでした。ですので、アルバイトをしている時には、これが将来の仕事に、しかもこれほどにも直接的に役に立つなど夢にも思いませんでした。今後の人生で役に立つものが何であるかなど、それを得た時点ではわかりっこない、と、人生のことなど語るにはまだまだ早いのですが、日々の小さな経験も将来どこかで役に立つのでは無いかと、密かに考えながら過ごしています。



アルバイトの先輩後輩みんなが企画してくれたサプライズパーティー。中央下のスーツ姿が私。大学のサークルには入れませんでしたが、和気藟々とした雰囲気は居心地が良く、現在でも交流のある先輩後輩がたくさんいます。



# OG訪問

歯科医師・土佐愛美さんはニーズの高まりとともに増加している訪問歯科診療の実践者。札幌でまだ実施歯科が少ないころから携わってきた中堅どころです。外来と訪問のバランスはほぼ半々ですが、今回は訪問診療にフォーカスしてご紹介します。

ドゥケア歯科 矯正歯科クリニック(札幌) 副院長  
土佐 愛美さん (歯学部歯学科2002年3月卒業)



## 訪問診療の緊張感

土佐さんが副院長を務めるドゥケア歯科矯正歯科クリニックでは、院長の西山公仁さん(本学歯学部卒業生)はじめ3名の歯科医師全員が外来に加え訪問診療を行っています。土佐さんも2004年の同クリニック就職と同時に訪問診療を始めました。訪問する患者さんの多くは高齢者。当初は認知症の方の対応にとまどうこともあったそうですが、いまは「患者さんの人生のエンディングに携わる大切な分野」と、外来とは違う大きな魅力を感じています。

訪問診療の患者さんは何かしら全身疾患を有するため、学問としても治療としても体から切り離して考えられがちな口腔も体の一部であることを強く意識するといいます。「口腔から全身の状態を知ることができますし、口腔から全身を壊してしまうこともあります。とくに高齢者の場合、間違った歯科治療は生きる力を奪うことになりかねないと、肝に銘じています」。ベッドサイドでより強く感じる緊張感こそ、やりがいを生む原動力のようです。

## 高齢者施設訪問

取材日の午前、土佐さんは車に歯科治療ユニットを積み歯科衛生士2名と高齢者施設へ向かいました。



「プロ意識の高い歯科衛生士なしでは何もできません」と土佐さん。高齢者施設訪問時は相談員、看護師と情報共有し、介護スタッフの協力も得ます。訪問診療にも息の合ったチームの力が不可欠です。



「こんにちは」と華やかな笑顔で居室を訪ねた土佐さんの口調は終始おっとりで、どの患者さんにも緊張する様子は見られません。しかし、おだやかに話しかけ、せかすことなく患者さんの話に耳を傾けながらも、口腔内を診たり義歯調整する手際は実にあざやか。その間にも歯科衛生士に指示を出し、別の患者さんの口腔ケアが同時進行します。患者さんの体調や気持ちの状態を見て、診療を無理強ひせず話をするだけでまさせることも。歯の治療に固執せず「患者さんその人に寄り添いたい」という土佐さんは、食べる・話す喜びをできる限り持続させること、口腔の苦痛や不快を取り除くことの前に、患者さんとの信頼関係、心のふれあいをとても大切にしています。

約10名の診療をし、その後個人宅で診療、一度クリニックに戻り、午後は高齢者施設、個人宅、計4軒を回るというのがこの日のスケジュールでした。

## 「先生、俺を看取ってね」

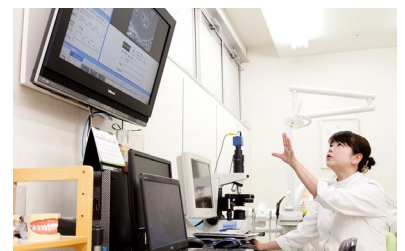
口腔の状態を良好に保てば全身の健康、生活の質が向上する手応えを日々得ている土佐さんですが、就職したてのころは訪問先に向かう車中「こうして運転している間にも同期は現場で実績を積んでいる」と技術面で



診療はベッド、車椅子、患者さんが楽な姿勢で、声がけしながら行います。治療ユニットのほか携帯式レントゲン装置も用意され、訪問先でも外来と同じ治療が可能です。

遅れを取る焦りを感じたことがあったそうです。しかし、外来では得られない経験の価値に気づいたことが自信につながりました。そこには患者さんとの関わりの深さ、難しさの分だけ多くの感動がありました。20代ころ担当した当時80代後半の患者さんは、100歳を超えての大往生まで自宅、入院先、高齢者施設のすべてで土佐さんの訪問診療を希望し「先生、俺を看取ってね」とまでおっしゃったといいます。そしていまも「次はいつ?待ってるよ」と慕ってくれる患者さんがいます。

「卒業してから、精一杯仕事することを毎日続けてきました。もっとできたのにと後悔したくないから。時々、夢の中でも治療しているんですよ」と笑う土佐さん。卒後16年間で得た経験、知識、技術は、この先さらに大きな花を咲かせそうです。



歯周病治療にも力を入れる同クリニックの外来では、患者さんの口腔内の歯周病原菌の有無、細菌の動きをモニターに映し出し、治療の動機付けに役立っています。





■主な事業の実績(つづき)

■研究活動

- 1.厚生労働省「厚生労働行政推進調査事業補助金(厚生労働科学特別研究事業)」探採事業の推進
2.文部科学省「研究拠点形成費等補助金(先進的医療イノベーション人材養成事業)」探採事業の推進
3.外部資金の導入
4.「教育力向上改善プログラム」の公募
5.長岡技術科学大学との研究交流の推進

■診療活動

2014(平成26)年度から2018(平成30)年度までの5年間で、前年度実績を患者数、医療収入はともに下回りました。歯科クリニックは延患者数932名増、医療収入は1,173千円増といずれも前年度実績を上回りました。

■社会貢献・連携

- 1.地域連携
2.認知症サポーター養成
3.北海道「介護従事者確保総合推進事業(介護のしごと魅力アップ事業)」探採事業の推進

と理解の促進を図り、より多くの学生が、次世代の福祉を担う人材を目指すための意識啓蒙を目的とした当該事業について推進しました。

4.高大連携

社会貢献の一環と位置付け、高大連携事業として、高校からの要請に応じ、本学教員を派遣しての模範講義および本学にて受け入れる体験学習やインターシップを実施しました。

■生涯学習

- 1.薬剤師支援センターにおける薬剤師研修の実施
2.認定看護師(CN)の養成
3.公開講座
4.市民医療セミナー

■国際交流

- 1.学生・学部間交流
2.国際交流
3.ロシアとの交流推進

防」と題して講演を行いました。

■広報活動

募集広報として新聞や進学雑誌などでの広告掲載、またターゲット地域を絞って交通広告を出しています。

■経営管理

- 1.新学部「医療技術学部・臨床検査学科」設置
2.人件費抑制
3.自己点検評価
4.社会医療法人社団カシオパロとの連携
5.予算の効率化・削減

■施設・設備

- 1.看護福祉学部棟マルチメディアAV機器の更新
2.看護福祉学部棟講義室空器(N26-2講義室)を教育環境の整備を図りました
3.リハビリテーション科学部学習支援センターの増設
4.CALL教室(2-3階)機器の更新
5.動物実験センター個別換気システムを導入

学校法人 東日本学園
2018年度予算

2018(平成30)年度当初予算は、3月20日開催の評議員会・理事会、予算の補正は、5月29日開催の評議員会・理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2018年度予算の概要

Table with 2 columns: 概要, 主な事業計画. Contains summary text and a list of key initiatives.

概要
私立大学をめぐる経営環境はこれまで以上に厳しい状況であります。近年120万人前後で推移してきた18歳人口は2018(平成30)年から更なる減少期を迎え、私立大学において志願者の獲得競争が一層激しさを増し、学生の安定確保が重要課題となっております。

Table with 3 columns: 収入の部, 支出の部, 増減. Financial statement showing income and expenses.

- ①教育活動収支
②教育活動外収支
③特別収支
④事業活動収支予算書

Table with 4 columns: 科目, 2018年度予算, 2017年度予算, 増減. Detailed financial statement for business activities.

- 主な事業計画
■教育及び学生支援活動
■国際交流

- 1.公認心理師の養成
2.地域包括ケアセンターを活用した大学院教育の充実・強化
3.専門看護師(CNS)の養成
4.特定行為研修およびオーストラリア研修(NP)の養成

# 2018年 新入生アンケート 結果報告

毎年恒例の全学実施の新入生アンケート。新入生が本学のどこに魅力を感じて出願したのかを聞いてみました。

すべての学科において、「医療系総合大学である」点を魅力に挙げた学生が多いという結果になりました。また、「キャンパス環境」という回答も多く、課外活動などでも他学科との交流が盛んなことに対する大きな期待があらわれています。

## 注目が集まる「国家試験成績」と「学生生活」。

高い合格率を誇る国家試験成績にも、回答が集中。また「学生生活」を挙げる学生も多く、自然と先端の施設・設備で学べる環境も本学の強い魅力であると言えます。

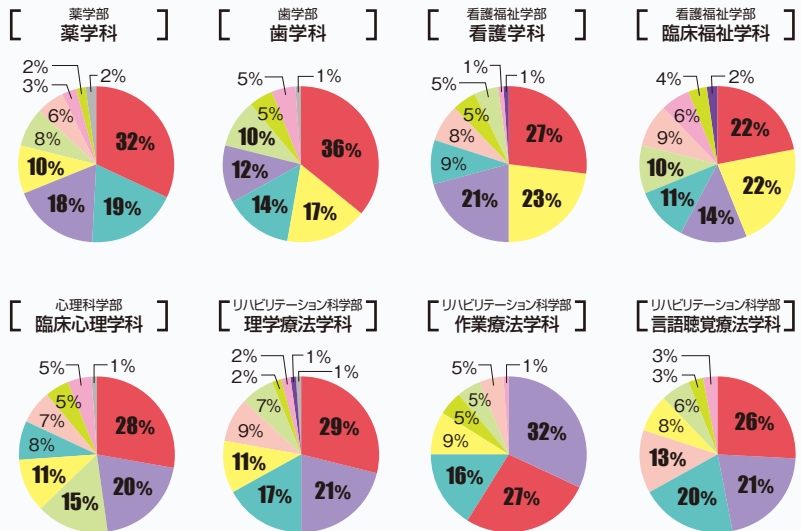
歯科衛生士専門学校では、「大学歯学部附属の専門学校だから」が1位に。

本校を選んだ理由では、「大学歯学部附属の専門学校だから」が最も多く、「施設・設備が整っている」「他学部との交流がある」にも回答が集まりました。

## 北海道医療大学

### Q. 併願を考えた他大学と比べて本学のどのところに魅力を感じましたか？

- 医療系総合大学である
- キャンパス環境
- 国家試験成績
- 学生生活
- クラブ活動
- 教育理念
- 就職状況
- 教育内容
- たくさんの教育・研究プロジェクトに採択されている
- その他



## 歯学部附属歯科衛生士専門学校

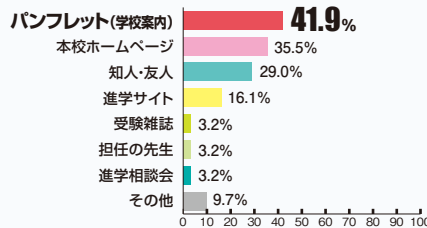
### Q. 本校のオープンキャンパスに参加しましたか？ 参加した 67.7%

### Q. 本校を選んだ理由は何ですか？ (複数回答可)

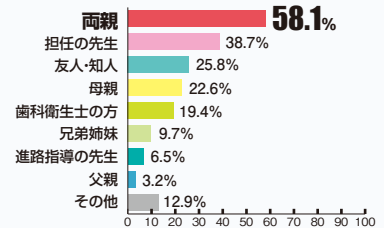
- 1位 大学歯学部附属の専門学校だから 83.9%
- 2位 施設・設備が整っている 74.2%
- 3位 他学部との交流がある 54.8%

同率4位 学費が安い、就職に有利である、家族・知人の勧め(25.8%)、7位 国家試験の合格率が高い(22.6%)、8位 教育内容や教員スタッフが優れている(16.1%)、9位 先生の勧め(3.2%)

### Q. 本校を何で知りましたか？ (複数回答可)



### Q. 進路決定にあたって誰に相談しましたか？ (複数回答可)



## EDITOR'S NOTE

四季の変化を感じながら、月日の流れの早さに自分自身でも驚いています。皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。夏至が過ぎ、北海道も夏本番となりました。4月には多くの新入生を迎え学内にもぎやかになり、大学祭も盛況のうちに終了いたしました。記事にもありますように、来年度は新学部を開設(設置認可申請中)し、新たな医療人を育てることとなります。すでに本学出身の医療人は全国各地で活躍しており、母校に多大なる力を与えてくれています。皆様にそのような大学・専門学校の様子を今後もお届けしたいと思います。本誌が母校を顧みる一助となれば幸いです。皆様からの情報お待ちしております。(N・H記)

## ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.170

STAFF ● 遠藤 泰 尚也 仲西 康裕 松田 康裕  
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 金澤 潤一郎 澤田 篤史  
本家 寿洋 柳田 早織 大山 静江 杉谷 昌彦  
三川 清輝 小林 伶

発行日 ● 2018年7月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課  
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757  
TEL: 0133-23-1211(代表)  
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/

広報誌へのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。  
E-mail: nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念  
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。